

ADVAN  
firewood  
stove

## 取扱説明書 stove FALO

FALO 1XL HI-1311552

Falo 1XL : how tradition approaches today's exigencies. A true chimney, which fits perfectly even in the most modern rooms with essential dimensions, giving warmth and personality.

Falo 1XL : wie sich die Tradition an den heutigen Ansprüchen nähert. Ein echter Kamin, der sich in die modernsten Räumen mit wesentlichen Maßen einfügt, indem er Wärme und Persönlichkeit verleiht.

Falo-1XL, al igual que la tradición, se acerca a las exigencias actuales. Una verdadera chimenea, que armoniza perfectamente incluso en los ambientes más modernos, de tamaño esencial, que proporciona color y personalidad.

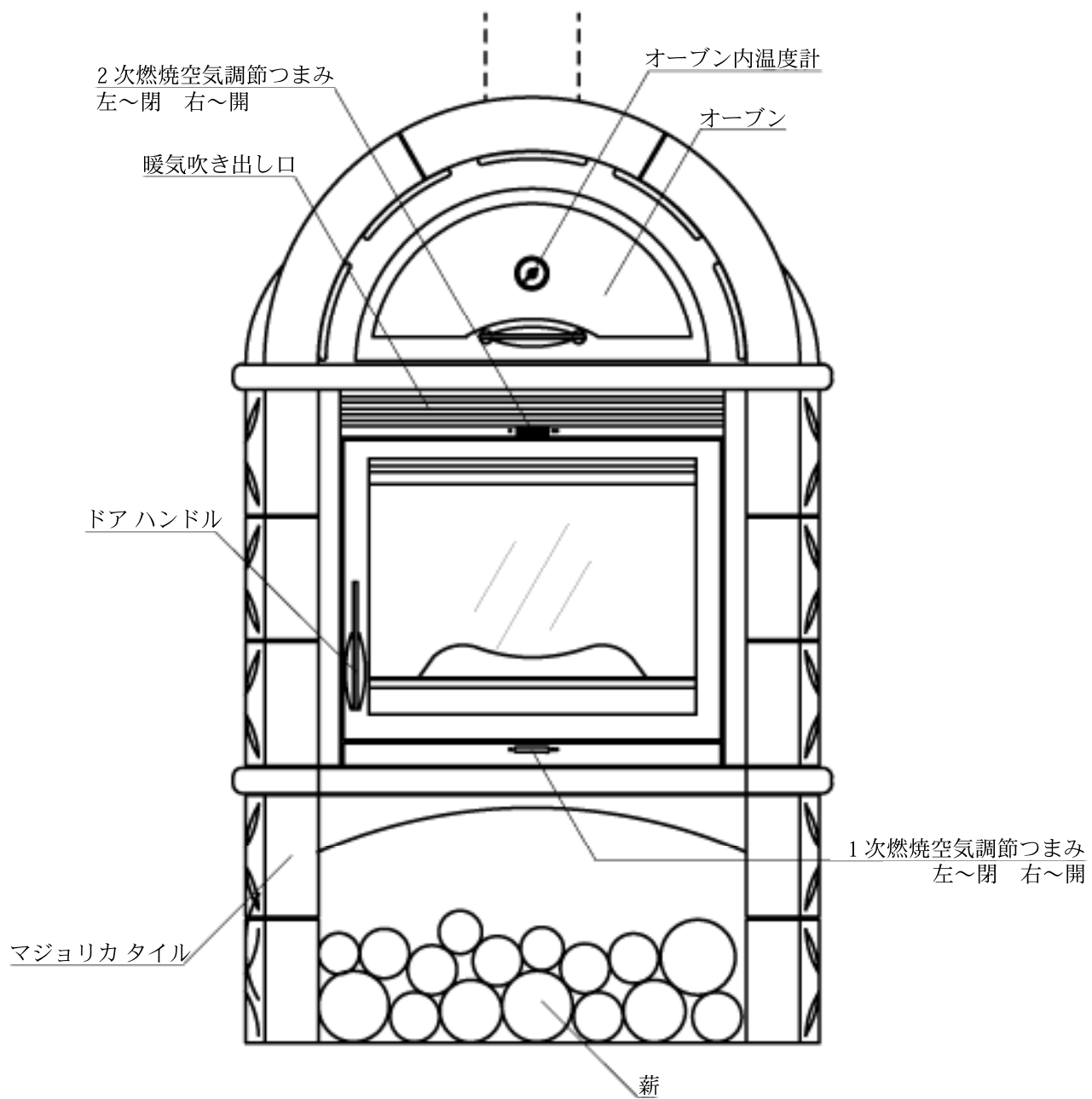
---

# 目次

---

各部名称 .....	1 page
取扱い説明書 .....	安全上の注意 ..... 2 page
	テクニカルデータ ..... 3 page
	空気の調節 ..... 4 page
	安全な燃焼のために ..... 4 page
	燃料（薪）について ..... 5 page
	空気取入れ口 ..... 5 page
薪の燃やし方 .....	6 page
使用方法 .....	着火準備 ..... 7 page
	着火 ..... 7 page
	燃焼 ..... 7 page
	燃焼中の匂い ..... 8 page
	オーブンの使用 ..... 8 page
	消化 ..... 8 page
	灰の始末 ..... 8 page
	ガラスのクリーニング ..... 9 page
	長期使用しない時 ..... 9 page
	メンテナンス ..... 9 page
困った時には .....	10 page
3 面図 .....	11 page

# 各部名称



---

# 取扱い説明書

---

## 安全上の注意

- ・ ご使用前に必ずお読み下さい。
- ・ ご購入者、及び使用者は、使用上の注意を十分理解し、正しい知識を持った状態でお使い下さい。
- ・ この説明書の注意、警告、を守らずにストーブを使用した場合の事故や損害には、当社は一切責任を持ちません。
- ・ 本体及び煙突の設置は、建築基準法、消防法及びお住まいの地域の火災予防条例に従って下さい。
- ・ 本体及び煙突の周りには、薪、家具、カーテンなどの燃えやすい物や、ガソリン、灯油、揮発性のある液体やスプレー缶を近づけないで下さい。火災や爆発などの原因となります。
- ・ 本体及び煙突の分解、お客様ご自身の判断による改造は、行わないで下さい。
- ・ 本体の温度が 400℃以上の状態で連続使用しないで下さい。高温の為、本体及び煙突が破損する恐れがあります。平均的な運転速度は 200～250℃位です。
- ・ ガラス扉は、薪の補充の時以外は開けないで下さい。燃焼効率が下がり、煙突内に煤がたまりやすくなります。又、火の粉が飛び、火災の原因になります。
- ・ プラスチック、ゴム、灯油、ベニヤ板や塗装された木材などは燃やさないで下さい。有毒ガス発生の原因となる可能性があります。
- ・ 燃焼中や消火後しばらくは、本体及び煙突に触らないで下さい。高温になっている為、火傷の恐れがあります。薪の補充などの際は皮手袋を着用して下さい。
- ・ 本体及び煙突に強い衝撃や過度の圧力をかけないで下さい。破損や事故の原因となります。又、ドアを勢いよく開けないで下さい。煙の逆流の原因となります。

- 
- ・お子様をストーブに近づけないで下さい。火傷や怪我をする危険性があります。あらかじめフェンスなどを設置する事をお勧めします。
  - ・事故防止のため就寝や外出の時はストーブのドアを閉め、火が消えるのを確認し、周囲に可燃物がない事を確かめて下さい。
  - ・地震や落雷にあった場合、破損、変形が発生している可能性があります。必ず点検をして下さい。異常が見つかった場合は施工店までご相談下さい。
  - ・ストーブの輻射熱を長時間皮膚にあてると低温火傷をする可能性があります。特に小さいお子様、お年寄り、体の不自由な方には、まわりの方が注意してあげて下さい。

#### テクニカルデータ

##### 品番 **HI-1311552**

最高出力	13 kw ( 11.180 kcal / h )
暖房の目安	30～35 坪
最大の薪長さ	55 cm
熱効率	81 %
連続燃焼時間	10 時間
煙突径	150 mm
煙突方向	上方
全高	1510 mm
全幅	950 mm
奥行き	630 mm
重さ	385 kg
オーブンプレートサイズ	500 × 470 mm

---

## 空気の調節

ストーブの燃焼用、給気レバーは2カ所あります。

### A) 1次エアー調節

扉の下にある給気レバーが1次エアー調節レバーです。灰受皿の下に燃焼に必要なエアーを送り出します。1次エアーは燃焼に絶対に必要な空気です。

定期的に灰受皿を空にしないと、1次エアーの給気の妨げになるので、注意して下さい。最初の着火のとき給気は全開にして下さい。

しかし、長時間全開にしすぎると薪は早く燃えてストーブがオーバーヒートする可能性があります。左へ動かすと閉じ、右へ動かすと開きます。

### B) 2次エアー調節

扉の上の方に2次エアー調節レバーがあります。左に動かすと閉じ、右に動かすと開きます。薪の燃焼状態にあわせて調節して下さい。

## 安全な燃焼のために

ストーブの取付けに関して以下の安全対策ををして下さい。

- 1) 可燃性の物から最低でも50 cmは離して下さい。特に後ろ側上部、両サイド上部は近くに物を置かないようにして下さい。
- 2) ストーブの正面に可燃物を近づける事は、禁物です。1 m以上必ず離して下さい。
- 3) ストーブの床、背面は不燃材で丈夫な物（石材、レンガ、セラミックタイル）が好ましいです。
- 4) 薪の品質によっては、燃える時、はぜる場合があります。よく乾燥した薪を使用して下さい。
- 5) 灰受皿の中の灰は高温です。取扱いは十分に注意して下さい。
- 6) 燃焼室内の残りの灰は完全に消えているとは限りません。取扱いはご注意ください。

---

## 燃料（薪）について

薪の種類は、大きく分けて ナラ クヌギ サクラ などの広葉樹と スギ マツ カラマツ などの針葉樹があります。

針葉樹はヤニを多く含んでいるため、煙突内にタールがたまりやすいので避けて下さい。薪はよく乾燥したもの、最大水分含有量20%以下の薪のみとして下さい。湿った薪は火の点きが悪く、不完全燃焼します。薪の長さは40cm前後のものが使いやすいサイズです。

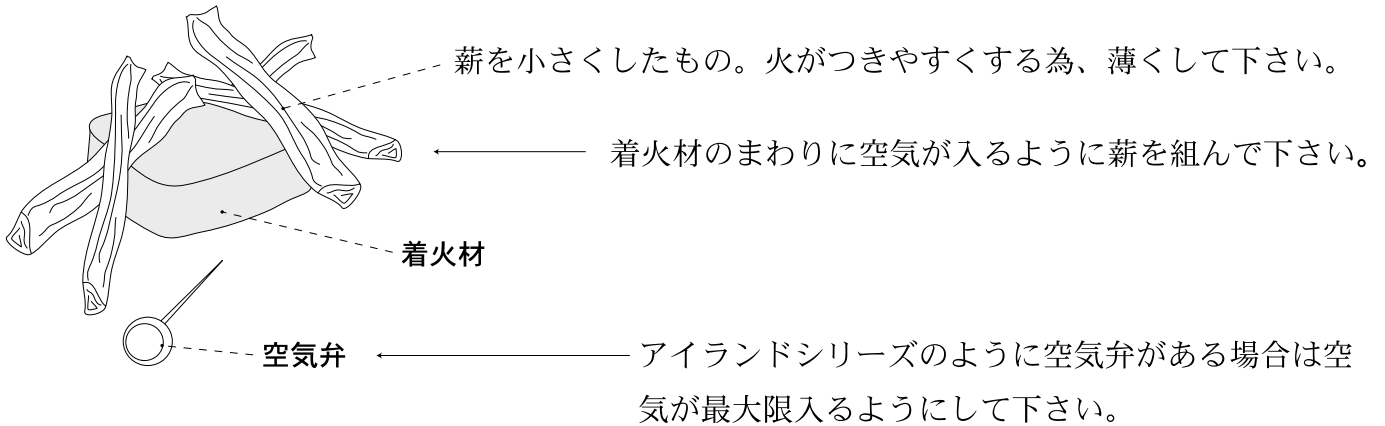
## 空気取入れ口

ストーブを使用する部屋に空気取入れ口を設置して下さい。完全燃焼の為には必要です。

そして燃焼中は、必ず開けておいて下さい。室内が負圧になり、安定した燃焼が出来なくなります。また、換気扇が回っている場合は止めて下さい。

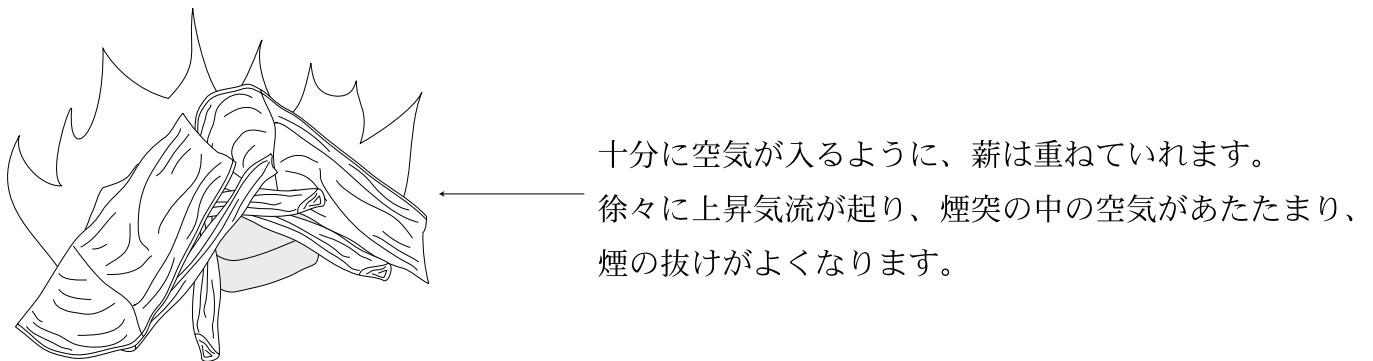
# 薪の燃やし方

## 1. 準備



## 2. 着火

着火材に火をつけます。たきつけに火がつくようになったら、細めの薪を入れて火力を強くします。十分な火力がないと大きな薪に火がつかず、まわりが焦げるだけになります。



### 【注意事項】

- 薪は少なくとも1年以上乾燥しているものが望ましいです。  
水分を含んでいるものを燃やすと、不完全燃焼を起こし、大量の煙が煙突から出ます。  
ご近所への迷惑にもなりますのでご注意ください。
- 廃材などを燃やすと、煙突の中に油分がつき、煙突がつまりやすくなり、煙導内火災の原因ともなります。



---

# 使用方法

---

## 着火準備

- 1 次エアー調節レバーを右側（開く）にして下さい。
- 2 次エアー調節レバーを右側（開く）にして下さい。
- ストーブの周囲から可燃物を 1 m 以上離してください。

## 着火

暖炉本体は陶器、鋳物、鋼板を使用しているため、部品の材質が均一ではありません。必ず最初の慣らし運転が必要です。（各部材の温度差は 5 0 0℃にもなります）

- 1) ストーブのある部屋の換気が、よく出来るようにして下さい。
- 2) 最初のうちは燃料を入れすぎないようにして下さい。
- 3) 少なくとも、マニュアルの半分の量で 4～5 回は繰り返してください。
- 4) 始めは長時間（6～10 時間）燃やしてください。
- 5) ニス、オイルの匂いがしますが、これは最初だけです。
- 6) 車と同じように、慣らし運転が必要です。

着火の時は、新聞紙か着火材で小さい木片に火を点けますが、液体燃料（アルコール、ガソリン、灯油）は絶対使用しないで下さい。

燃焼の時、一度にたくさんの薪を入れると、オーバーヒートを起こします。

火災につながる危険性がありますので、注意して下さい。

## 燃焼

炎が大きい時は、ドアを開けないようにして下さい。

空気量は空気調節のレバーで調節します。暖房の必要性に応じて開閉します。

通常燃焼の空気調節は、以下のとおりです。

薪の燃焼	1 次エアー調節	1/4 開く	ドア下部にあります。
	2 次エアー調節	1/2 開く	ドア上部にあります。
	（どちらも レバーは、左側で閉まる、右側で開く）		

煙突によって、ストーブの熱量は大きく変化します。正しい径の煙突を使用し、正しく施工する事が重要です。ストーブの燃焼チェックは、煙突から出ている煙で判断する事が出来ます。

煙が透明の時の良い状態です。煙が白い場合薪が湿っています。

十分に乾いた薪を使用して下さい。

1 次エアー調節を開くと燃料消費、及び放熱、は最大になりますので注意が必要です。燃料の補充以外は、扉はいつも閉じておいて下さい。

---

## 燃焼中の匂い

煙の匂いがする時は、煙突のトップに問題があるのかも知れません。このような場合は煙突、トップの点検をし、必要であれば清掃を行って下さい。

## オーブンの使用

正常な燃焼ならば、熱が回ってどんどんオーブンの温度は上がります。オーブン内部は常に清掃してください。おいしい料理を作るには温度管理が大切です。

## 消火

薪ストーブの場合、炎は自然鎮火させます。2次エア調節レバーを3/4まで閉め、1次エア調節レバーを左側（完全に閉めます）にします。そうすると薪が自然に燃え尽きるような状態になります。燃えかけの薪がある場合、くすぶって煙を充満させてしまいます。消火30分前は、薪を追加しないようにすると良いでしょう。急いで火を消す必要がある場合でも、水は絶対にかけないで下さい。

## 灰の始末

灰の清掃は、火が完全に消えて、ストーブと灰が冷えてから行って下さい。灰は可燃性の容器には入れないで下さい。火が消えている様でも燃え出す事があります。不燃性の容器（金属バケツ、陶器の器）にいれ、完全に冷えている事を確認してから処分して下さい。

このストーブは、灰受けの引出し、火格子（グリッド）を備えています。灰受けの灰は定期的に掃除をして下さい。

又、格子の上の灰は、常に3～4cm位置いて置くのが良いでしょう。

---

## ガラスのクリーニング

ガラスの掃除は本体が必ず冷えている時に掃除して下さい。  
熱い時は濡れ雑巾などで拭くとガラスが割れる事があります。

## 長期間使用しない時

灰を完全に除去します。 炉床、煙突、トップを清掃した後にドアをしめます。ガスケットの状態もチェックして下さい。 ストーブに密着していない場合は交換して下さい。ストーブのある部屋に湿気のある場合は、燃焼室に乾燥剤を入れると良いでしょう。 又、内外部の鋳鉄部分にはさび止め剤（中性ワセリンなど）で保護する事をお勧めします。

## メンテナンス

このストーブは正常な使用ではめったに壊れません。煙突は少なくとも年に1回は掃除をして下さい。掃除はストーブが冷えている時に行います。煙突の掃除は専門の人に行ってもらい、この時ストーブの点検も一緒に行うと良いでしょう。

燃焼室など内部の掃除はブラシの付いたバキュームクリーナーを使うと便利です。

定期的な煙突掃除の時、煙突の接続、気密のチェックなども、一緒に依頼して下さい。

# 困った時には……

症状	原因	対策
薪が燃えない。	湿った薪を使っている。	薪は一年以上乾燥させたものを使って下さい。
	太い薪を使用している。	最初は細い薪を燃やし、徐々に太い薪を燃やしてください。
	吸気が閉じている	燃烧空気取入れ口を開いて下さい。
	煙突がすすでつまっている。	煙突掃除を行って下さい。
室内に煙が戻る。	換気扇が回っている。	換気扇を止めて下さい。
	煙突の曲がりや横引きが多い。	煙突の曲がりをなくしてください。(施工をやり直す必要がある場合があります。)
	煙突の長さが足りない。	煙突を追加する必要があります。
	煙突がすすでつまっている。	煙突掃除を行って下さい。
	煙突トップがつまっている	清掃を行って下さい。
薪の燃焼が早すぎる。	吸気の量が多すぎる。	燃烧空気取入れ口を絞って下さい。
	細い薪を多く利用している。	太い薪も使用して下さい。
	針葉樹を燃やしている。	針葉樹は燃え尽きるのが早く、温度変化も大きいので、本体や煙突に大きな負担をかけます。 安定した火力の広葉樹の薪をお勧めします。
	扉がしっかり閉まっていない。	扉をしっかり閉めて下さい。
	ガスケットが消耗している。	ガスケットを交換して下さい。
ドアガラスがくもる。	給気を絞るタイミングが早すぎる。	薪への着火が不十分な状態で給気をしぼると、不完全燃焼になり、煤やヤニが発生しやすくなります。炎が薪全体に回り、口元の温度が200℃程度になってから火力を調節して下さい。
	扉がしっかり閉まっていない。	扉をしっかり閉めて下さい。
	ガスケットが消耗している。	ガスケットを交換して下さい。

3 面図

